

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LESSON 8 授業例②

K.J. 先生

指導計画表

(全 13 時間)

	単元の目標
ア	<p>■コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <p>「ALT に学校生活を紹介しよう」という活動に関心をもち、自分の学校生活について意欲的に紹介しようとしている。</p>
イ	<p>■外国語表現の能力</p> <p>現在進行形の表現を用いて、学校紹介について書いたり、話したりして表現することができる。</p>
ウ	<p>■外国語理解の能力</p> <p>現在進行形の表現を用いられた発話を聞いたり、文章を読んだりして、その内容を理解することができる。</p>
エ	<p>■言語・文化についての知識・理解</p> <p>現在進行形の文構造についての知識があり、「ALT に学校生活を紹介する」場面で発話をする際の語彙や表現を身につけている。</p>

時間	学習内容・主な活動
【第一次】 1	<p>(1) ALT の友人からの手紙を読み、本単元の活動内容を知る。</p> <p>(2) マインドマップで紹介したい内容を考える。</p> <p>(3) ペアで学校生活に関する対話活動を行う。</p> <p>(4) 教師のモデルスピーチを聞く。</p> <p>(5) 対話活動を振り返って、伝えられなかった表現を出し合う。 [ア]</p>
【第二次】 1	<p>現在進行形を用いた文の意味や構造を理解する。 [エ]</p>
1	<p>Part 1：アメリカの中学校での昼食の様子を知る。 [ウ・エ]</p>
1	<p>Part 2：アメリカの中学校での昼食の様子を知る。 [ウ・エ]</p>
2	<p>Read：メール文の構成と読み方を知り、メールの概要や大切な部分を読み取る。 [ウ・エ]</p>
2	<p>Mini-project：教師のモデル文を読んで紹介文の構成を理解し、学校紹介の原稿文を書く。 [イ・ウ]</p>
1	<p>小集団で互いの原稿を読み合い、予想される質問とその答えを考える。 [ウ・イ]</p>
1	<p>小集団で音声による発表を評価し合う。 [イ・ア]</p>
【第三次】 2	<p>ALT に学校生活を紹介する活動を行う。 [イ・ア]</p>
3	<p>まとめのライティングと単元全体の振り返りをする。 [エ・イ]</p>

実践例

1. 指導観

異なる文化をもつ相手に日本の学校について紹介する際、その学校の特徴や自分との関係など、多くの情報を相手に伝える必要がある。また、生徒にとって関心のある話題であることから、相手の発話に興味をもって聞こうとし、相手の発話に沿ってコミュニケーションの内容を発展させることができる。

LESSON 8 は、ポールが写真を見せながらアメリカの中学校の昼食について紹介し、久美がポールに質問するという場面と、姉妹校のリサからのメールを通してアメリカの中学校について知識を深めるという場面である。これらの場面では、被写体となる人物が何をしているかを説明するのに現在進行形が使われている。そこで本単元では、「ALT に学校生活を紹介します」という課題を設定し、現在進行形などを用いて学校生活を紹介しますの原稿を書き、聞き手を意識して正しく伝えることをねらいとした。具体的には、母国で教師をしている ALT の友人が日本の教育に興味があり、ALT がどんな学校で働いているのかを知りたいという設定で、生徒が ALT に自分の学校生活を紹介しますという課題である。この活動を通して、生徒は自己や他者が現在行っていることを書いたり、学校の様子やよさを分かりやすく話したり、ALT の母国の学校のことを聞いたりして互いの学校生活について交流することができるようになる。このことは、生徒のコミュニケーション能力の基礎を育成する上で意義深いと考える。

2. 指導の実際

【第一次】

この段階では、本単元の「ALT に学校生活を紹介します」の流れをつかみ、新出言語材料である現在進行形を学習する必要性に気づき、紹介内容や英語の表現についての課題を明らかにすることをねらいとした。まず、母国で教師をしている ALT の友人からの手紙を読み、その内容を理解した。

Dear Michael,
Hi, Michael! How are you?
I'm so interested in your junior high school in Japan. Please tell me about your school and students.
Yours,
Emma

次に、ALT に伝えたい N 中のよさを考えるために、マインドマップを作成する場を設定した。生徒は体育会や合唱コンクールなどの学校行事や、自分が所属している部活動、家庭科の調理実習や書道の授業などをマップに記入していった。

さらに、be 動詞や一般動詞、既習の表現を用いて、ペアで学校生活に関する、以下のような対話活動を行った。

A: Do you enjoy your school life?
B: Yes, I do.
A: What do you like about school?
B: Tennis club. It is fun.

この生徒は、N 中は部活動が盛んなことや自分が所属するテニス部について書いていたが、「先輩が優しい」や「仲間は大切だ」という表現が分からず、It is fun. とだけ伝えていた。

その後、教師のモデルスピーチを聞き、本単元のゴールの姿をイメージさせた。

I'm going to tell you about school events. I enjoy my school life because we have many school events in N junior high school.
This is a picture of the school festival. Ms Takahashi is performing "Alice" in a drama. She was a good actress. I drew a big picture. It was very hard for us, but we performed a good play.
I learned the importance of cooperation in this event. I made a good memory with my classmates.

※本校では Why?/Because~. を 1 年で導入している

最後に、対話活動で相手に伝えられなかった内容や表現を共有できるように、学級で交流する場を設定した。

＜ 考察 ＞

- 学校紹介する際に伝えたいアイデアを生み出すために、マインドマップを作成する場を設定したことで、伝える材料を整理することができ、紹介する内容を広げることができた。
- 学校紹介をする際の内容や表現についての課題を明らかにできたが、現在進行形を学習する必然性を感じさせられなかった。動画などを用いて視覚に訴えるモデルスピーチを提示すべきであった。

【 第二次 】

この段階では、現在進行形などを正しく用いて、自分の学校生活を紹介する原稿を作成し、相手に伝えることをねらいとした。

新出言語材料を習得する段階では、現在進行形の文の構造を理解することができるように、形式・意味・使い方について学習した。その際、現在形 Tom plays baseball every day.と、現在進行形 Tom is playing baseball now.を比較する場を設定した。生徒は、一つの文に be 動詞と一般動詞が同時に使われていることに注目した。ここでは、現在形は「普段から変わらないことや習慣」を表し、現在進行形は「今まさに行われている動作」を表すと説明した。次に、語順カードを用いて英文を作成する活動を設定した。「語順カード」とは、主語は黄色、動詞は桃色、目的語は青色と色分けしたカードのことである。このカードを並べかえながら問題演習に取り組んだ。生徒は主語によって適切な be 動詞を選択したり、e が落ちて ing をつけるもの（例 using）や、子音字を重ねて ing をつけるもの（例 running）を習得したりした。次に、現在進行形を含むアメリカの中学校での昼食の様子や、学校生活を紹介したメールの内容を読み取る活動を設定した。生徒は be 動詞＋動詞 ing の部分にアンダーラインを引きながら現在進行形が本文中でどのように使われているのかを確認した。

学校紹介文のアウトラインを作成する段階では、トピック文で「N 中のよさとその理由」を、サポート文で「紹介する内容や具体例」を、結論文で「N 中のよさをアピール」を書くという条件を課した。第一次で用いた教師のモデル文を提示して、紹介文

の構成について確認した。生徒はマインドマップを参考に、教科書や学習プリントの表現を利用したり、辞書で英単語を調べたりしながら、5 行程度の英文を書くことができた。しかし be 動詞の欠落や、動詞の ing の欠落などの文法ミスや、一文一文は正しく書くことはできているが、文と文のつながりに注意して書くことができていない原稿が見られたので学級全体で再度、現在進行形の文の作り方を復習したり、and, but, so 等の接続詞の使い方を学習したりした。教師による個別添削後、各自で紹介する際に必要となる学校紹介カードを作成した。生徒はイラストを描いたり、写真を貼ったりして、意欲的に作品を作成することができた。

[トピック文]

I'm going to tell you about our club activities. I enjoy my school life because I like tennis.

[サポート文]

This is a picture of the tennis club.
I am playing tennis in this picture.

[結論文]

I enjoy tennis club.

小集団で相互評価する段階では、各々が作成した原稿を読み合ったり、音声で伝えて聞き手からの問いかけに応答したりする活動を設定した。グループ（3～4名）は、各々の英語力や人間関係に配慮して意図的に編成したものである。

評価活動①として、自分の学校紹介文の不足点に気づき、ALT からの問いかけに回答することができるように、ALT からの質問とその答えを予想する活動を設定した。まず、紹介文の不足点に気づくことができるように、学級全体で情報量の足りない教師のモデル文を読んで ALT が知りたいと思うことを予想し、それにどう答えるかを考えた。次に、小集団で互いの原稿を読み合った後、読み手が紹介内容をもとに、ALT から尋ねられるであろう質問を考え、評価シートに日本語と英語で記入した。生徒は、知らない単語は辞書を使って仲間の原稿を読んでいった。しかし、生徒の現段階の英語力では、英語で質問文を作成することは難しかったようだ。その後、仲間からの質問に対する答えを考えたり、仲間から

のアドバイスを参考にして原稿を付加修正したりした。

評価活動②として、聞き手を意識して正しく伝えることができるように、小集団で音声による発表を評価する活動を設定した。まず、分かりやすく相手に伝えるポイントとして、生徒は clear voice, speed, eye contact, smile 等を挙げた。次に、グループ内で音声による紹介活動を行った。聞き手は一人の紹介が終わったら、アイコンタクトや声の大きさ等の対応面に関する評価を行った。発音に自信がなかったり、原稿を暗記できていなかったりしたため、聞き手を意識して伝えることができていない生徒もいたが、聞き手が存在することで、生徒は相手意識をもって懸命に伝えようとしていた。最後に、紹介内容と発表の仕方の優れた数名の生徒による発表をモデルとして聞いた。下の原稿の波線部は、仲間からのアドバイスを参考にして付加修正したものである。

I'm going to tell you about our club activities in N junior high school. I enjoy my school life because we practice with my teammates.

This is a picture of the tennis club. I'm a member of the tennis club. I am playing tennis in this picture. We practice it after school every day. We have about 50 members in the club. Our older members are kind. They play tennis very well. So I respect them. We practice tennis very hard, so we enjoy club activities.

< 考察 >

- 語順カード（オリジナル教材の開発）や、その拡大版を用いて現在進行形を説明したこと（板書の工夫）で、生徒が視覚により情報を得ることができ、その結果、be 動詞の欠落や ing のつけ忘れ等、現在進行形の文構造を理解することができた。
- 紹介文のアウトラインを作成する段階を設定したことで、現在進行形を用いて一定量以上の意味のつながりのある英文を書くことができた。
- 意図的なグループ編成を行って、音声による紹介スピーチの相互評価活動を行ったことで、生徒は聞き手を意識して伝えることができた。

- ALT からの質問を予想して、英語で考えることは生徒にとって困難であった。ALT の友人はどんな人で、日本の学校についてどんなことを知りたいのか等の情報を前もって提示し、ある程度視点をしぼって質問を考えさせるべきであった。

【第三次】

この段階では、ALT に学校生活を紹介する場面において、聞き手を意識して伝えることができるように ALT との対話活動の場を設定し、ALT からの問いかけに適切に応答することをねらいとした。ALT は①紹介内容（N 中のよさを理解できたか）②発表の態度（アイコンタクト・声の大きさ・発音）③質疑応答 を評価した。生徒は第二次で作成した学校紹介カードを見せながら、学校生活について紹介した。生徒は紹介文をできるだけ見ずに、伝えるスピードや声の大きさ等を意識しながら ALT に紹介していた。小集団で相互評価する活動で練習を積んでいたため、緊張しながらも一生懸命に伝える姿が見られた。その後、ALT は一人ひとりに「Yes / No で答える質問」と「具体的に答える質問」をたずねた。事前に ALT からの質問を予想したり、その質問の答えを準備したりしていたので、少し余裕をもって質問に答えていた。しかし予想外の質問をされて、どう答えたらいいかわからず下を向いてしまったり、何も答えられなかったりする生徒もいた。

ALT との対話活動後は、単元を通して学んだことや今後の課題をまとめる活動を行った。

< 考察 >

- ALT と一対一で自分の学校生活を紹介する活動を位置づけたことで、相手意識をもって伝えることができた。
- ALT からの質問を正しく理解し、適切に応じることができない生徒が多かった。

3. 成果と課題

(1) 成果

- 英語を使う必然性のある具体的な場面を設定し、コミュニケーションを図る活動を積み重ねたことは、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することに有効であった。

- 学校生活について紹介するために、内容的にまとまりのある英文を書いたり、モデル文を読んだり、グループの仲間やALTに伝えたり、聞いたりする活動を設定したことは、コミュニケーション能力の基礎を育成することに有効であった。

(2) 課題

- 実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動と、それを支える言語材料について基本的な事項の理解や練習を行う活動とのバランスに配慮した指導を行う必要がある。
- 会話を継続し、発展させていく能力を育てるために、知らない表現は言い換えたりジェスチャーで伝えたり、また相手に聞き返して内容を理解し、適切に応じたりすることに慣れさせる必要がある。